

6 開口部 ドライジョイント工法

1) 開口部 施工仕様一覧

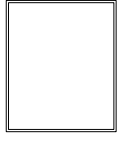
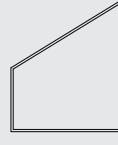
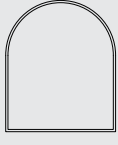
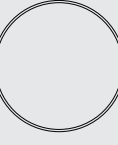
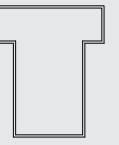
開口部	シーリング納め	●プラチナシールを使用	→設計施工資料集参照
	ドライジョイント工法 開口部仕様Ⅰ	●釘を使わない(表面に露出しない) ●完全ノンシーリング (寒冷地の捨てシーリングは除く)	→P148～
	ドライジョイント工法 開口部仕様Ⅱ	●一部にシーリングを使用するが 表面には露出しない ●仕様Ⅰに比べ施工性アップ	→P155～

※外壁に1時間準耐火構造が求められる場合はQF060BE-9225に準じて施工してください。使用の可否は各自治体の建築主事や指定確認審査機関にご確認ください。

2) サッシの確認

※サッシの形状、寸法、位置などによりドライジョイント工法が適用できない場合があります。事前に確認してください。

- ① 適応サッシ形状 ————— ・外付けまたは半外付けサッシ ・外周形状(シャッターボックス等も含めた形状)

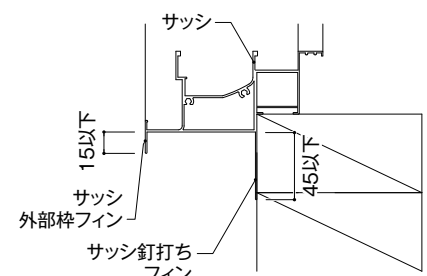
				
○ (施工可)	× (施工不可例)			

- ② サッシの寸法 ————— 2900×2900mm以下

- ③ サッシ釘打ちフィン寸法 — 45mm以下

- ④ サッシ外部枠フィン寸法 — 15mm以下

- ⑤ サッシの位置 ————— モエン最小必要寸法納まり図参照(P149、156)



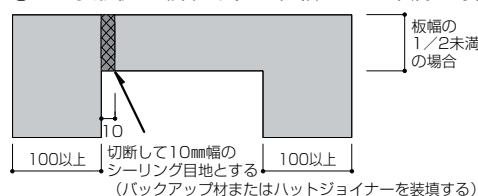
- ・サッシの形状、寸法、位置などによりドライジョイント工法が適用できない場合があります。
 - ・モエンの切り欠き寸法によってシーリング目地が必要になる場合があります。(下図参照)
 - ・柄により、Fu-geとトップ材のあいだに隙間があくことがありますが、止水性能には問題ありません。
 - ・寒冷地域で施工する場合、開口上部にはシーリングが必要です。
- 【開口部仕様Ⅰ】・開口上下のスリット加工には、専用工具「(株)マキタ製 ジョイントカッター PJ7000」が必要です。
- 【開口部仕様Ⅱ】・鋼板下地材Ⅱの施工では一部に捨てシーリングが必要です。
- ※推奨の濃色系シーリングを使用してください。シリコン系のシーリングは絶対に使用しないでください。

モエンの切り欠きは原則として、板幅(455mm)の1/2以下の寸法としてください。

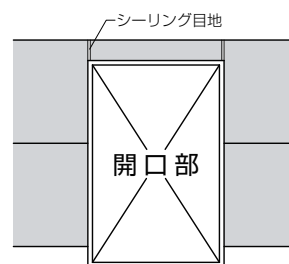
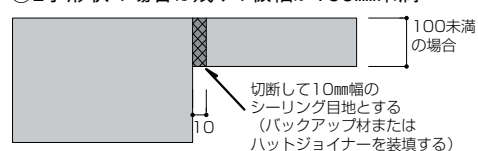
割り付け上やむを得ず、残りの板幅が①、②となる場合は必ず切断し、シーリング目地を設けてください。

※切り欠きによってはシーリング目地が入ります。外観に影響しますので、事前の計画でご遠慮ください。

- ① コの字形状の場合は残りの板幅が1/2未満の寸法



- ② L字形状の場合は残りの板幅が100mm未満



シーリング目地を設けた一例
四方合いじゃくり品も同様です。